

# リテラシー領域

## 言語分野

言語分野は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語から選択することができます。

### 英語

1年次		2年次以上	
前期	後期	前期	後期
基礎英語 I	基礎英語 II	基礎英語 III	基礎英語 IV
実用英語 I	実用英語 II	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション II
Basic Speaking I	Basic Speaking II	Speaking I	Speaking II
	Japanese Culture and Language in English	Reading I	Reading II
		Listening I	Listening II
		Intensive Training I	Intensive Training II
	英会話 I	英会話 II	英会話 III

#### 基礎英語 I ~ IV

「読み、書き、話し、聞く」という基礎英語能力をバランスよく伸ばすことを目指したベーシック科目です。

#### 実用英語 I ~ II

学部別の内容となっています。学部での学習に必要と考えられる英語技能を育てます。

#### Basic Speaking I ~ II

より高い英語力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので英語力向上を強く希望し、積極的に授業に参加する姿勢が求められます。

#### Japanese Culture and Language in English

海外語学研修や留学を目指すための科目です。海外で生活送るために必要となる語学力向上を目指すとともに日本についてもプレゼンテーションなどを通して発信する力を磨くための科目です。

#### 英語コミュニケーション I ~ II

基礎となる英語力をもとにコミュニケーション能力を育てる科目です。

#### Speaking I ~ II

より高いスピーキング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。積極的に参加し、意見を述べることが求められます。

#### Reading I ~ II

より高いリーディング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので、積極的に取り組む姿勢が求められます。

#### Listening I ~ II

より高いリスニング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので、積極的に取り組む姿勢が求められます。

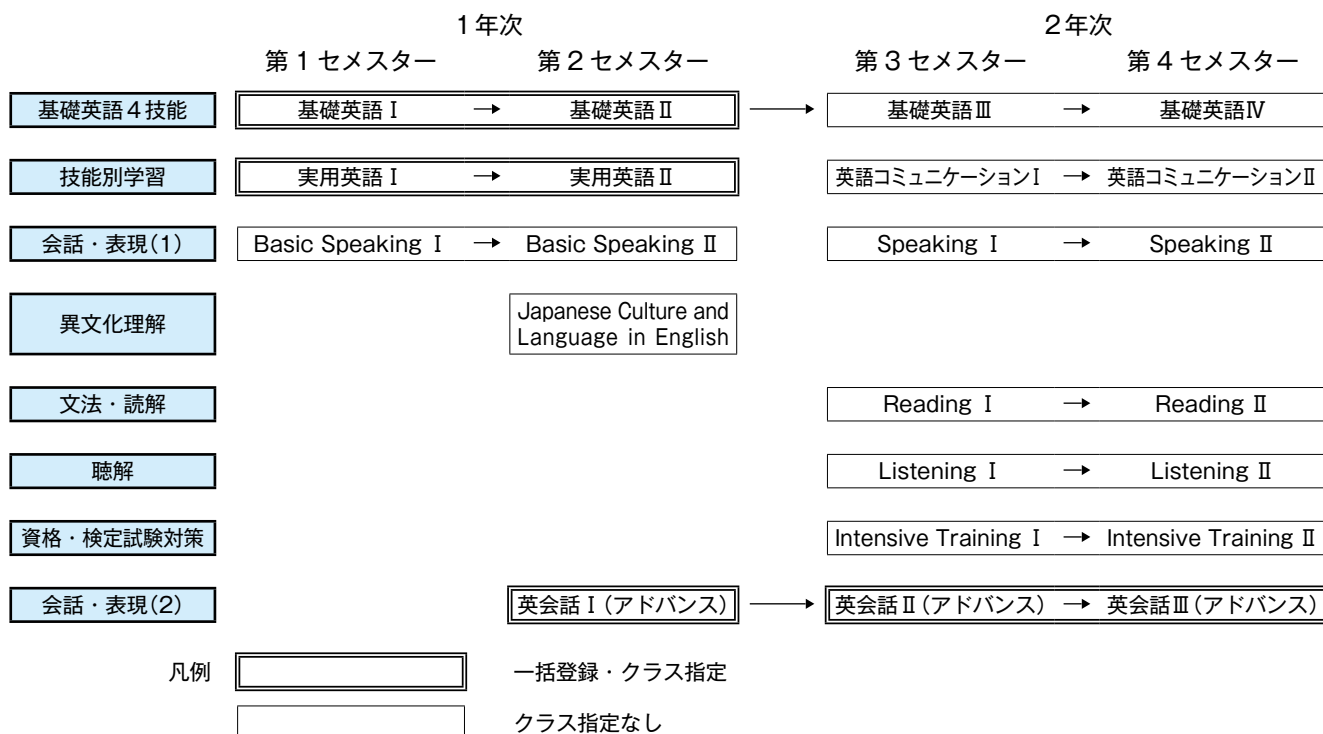
#### Intensive Training I ~ II

英語力を客観的に判断する資格試験に対応する科目です。資格対策は容易な内容ではありませんので、すでにある程度の英語力（英検準2級合格レベル）の英語力がある人を対象とします。

#### 英会話 I ~ III

上級者向けの英会話クラスです。しっかりとリスニング・スピーキングの基礎を磨き、コミュニケーションで応用できるようにするための科目です。

## 履修系統図



注1：基礎英語 I・IIについては学力診断テスト結果をもとに習熟度別クラスに分かれる（ただし、栄養学部はクラス分けなし）。

注2：実用英語 I・IIについても薬学部以外は基礎英語 I・IIと同様に学力診断テスト結果をもとに習熟度別クラスに分かれる。薬学部は実用英語 I・IIは選択制であるため一括登録ではない。

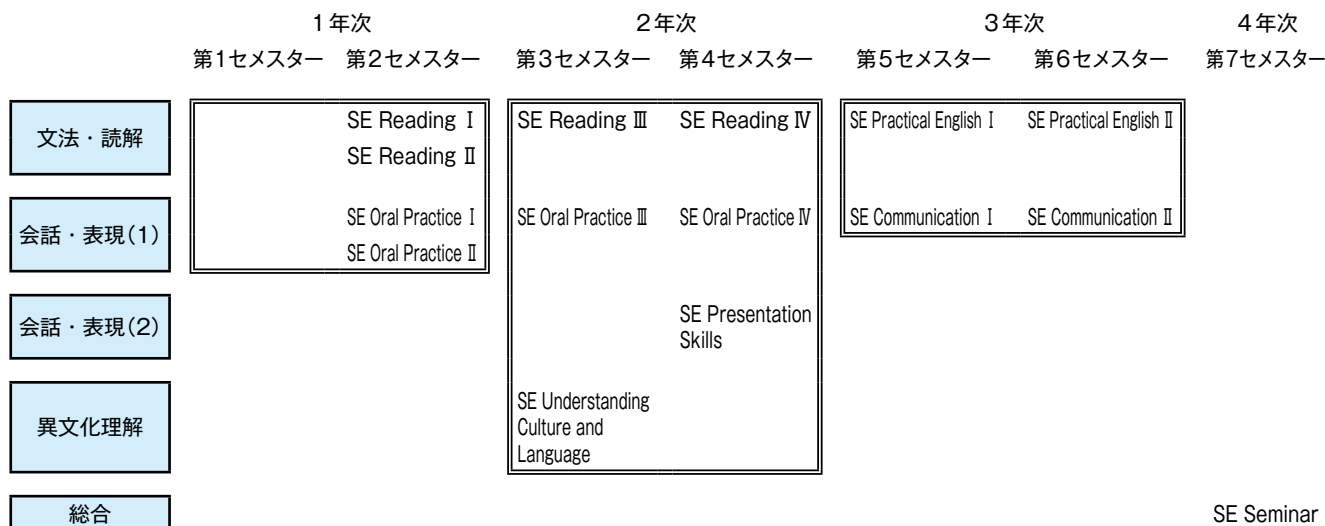
注3：基礎英語 III・IVおよび英語コミュニケーション I・IIについて人文学部、心理学部及びグローバル・コミュニケーション学部（英語コース以外）は一括登録。その他学部は選択制でクラスやレベル指定なし。

注4：会話・表現(2)の英会話 I～III（アドバンス）は教職科目である。

注5：クラス指定科目以外、全ての科目で定員に制限がある。希望者が多い場合は抽選で履修者選考を行う。

注6：グローバル・コミュニケーション学部英語コースの学生は共通教育英語科目に関しては学部のガイドラインに従うこと。

## 〈神戸学院カレッジ (SE)〉



注1：神戸学院カレッジは特別選抜クラスですので、許可された学生のみ受講できます。

# 言語分野

## ドイツ語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級ドイツ語 I a	初級ドイツ語 II a	中級ドイツ語 I A	中級ドイツ語 II A	上級ドイツ語 I	上級ドイツ語 II
初級ドイツ語 I b	初級ドイツ語 II b	中級ドイツ語 I B	中級ドイツ語 II B		
		ドイツ語検定対策 I A	ドイツ語検定対策 II A		
		ドイツ語検定対策 I B	ドイツ語検定対策 II B		

**初級ドイツ語 I a・I b**  
**初級ドイツ語 II a・II b**  
 (総合的コミュニケーション)

a科目とb科目は、教員2人が一冊の教科書を使って、リレー式に授業を進めます。ただし、中間試験・定期試験の際には、a科目では文法と読解の能力を、b科目では、「話す・聴く・(読み手を想定して)書く」能力を測ります。CEFR(『ヨーロッパ言語参照枠』)A1レベルを到達目標として、学んでいきましょう。また、後期の第2 Semesterになれば、「独検」5級の合格圏内に入ります。

**中級ドイツ語 I A・II A**  
 (総合的コミュニケーション)

A科目、B科目とも教科書は同じで、1年次に使った教科書の続編(前半部分)を使います。A科目は1年次と同じ「話す・聴く・(読み手を想定して)書く・読む」という総合的なコミュニケーションを図ります。一方、B科目では、それらの能力を獲得するために、コンピューターやスマートフォンを使った学習が加わります。CEFR(『ヨーロッパ言語参照枠』)A1プラス・レベルを到達目標として、学んでいきましょう。前期の第3 Semesterでは、「独検」4級、後期の第4 Semesterになれば、「独検」3級の合格圏内に入ります。

**中級ドイツ語 I B・II B**  
 (ICTによる学習)

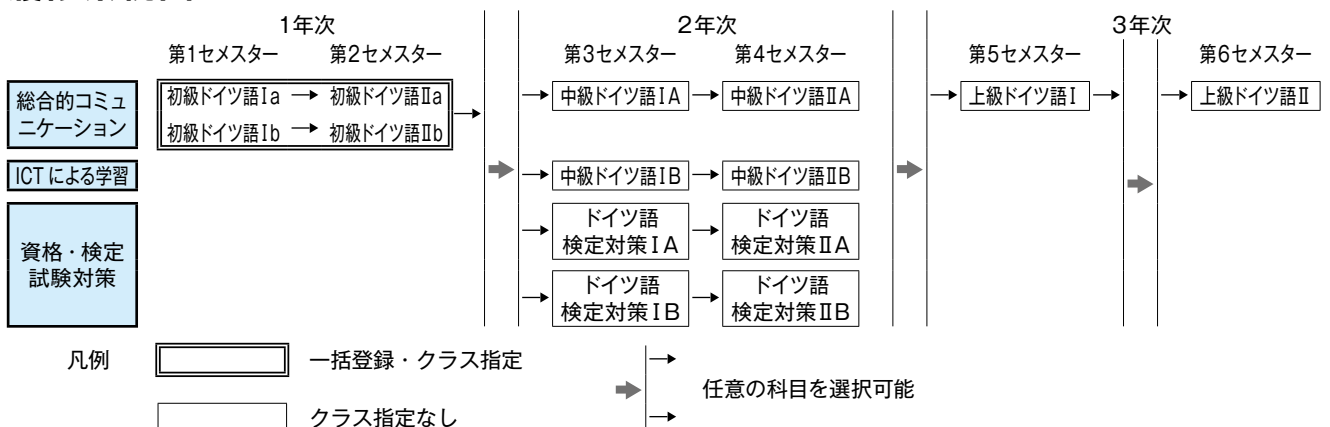
**ドイツ語検定対策 I A・II A**  
**ドイツ語検定対策 I B・II B**

A科目、B科目とも、検定試験の受験を想定した対策コースです。ただし、A科目は前期で「独検」の4級を、後期で「独検」3級レベルに合わせた授業内容・授業方法となります。一方、B科目ではヨーロッパの検定試験、たとえば「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験」や、ドイツ文化センターのStart DeutschのCEFR(『ヨーロッパ言語参照枠』)A1プラス・レベルに合わせた授業内容・授業方法となります。将来の就職活動に有効な資格を取りましょう。なお、教科書はA科目では「独検」5級・4級・3級に対応したものをを使うのに対して、B科目では、1年次に使った教科書の続編(前半部分)を使います。

**上級ドイツ語 I・II**  
 (総合的コミュニケーション・時事)

教科書は、1年次に使った教科書の続編(後半部分)を使用します。「話す・聴く・(読み手を想定して)書く・読む」という総合的なコミュニケーション能力をさらに伸ばしていきますが、時事問題にも目を向けましょう。CEFR(『ヨーロッパ言語参照枠』)A2レベルを到達目標として、学んでいきましょう。前期の第5 Semesterから、後期の第6 Semesterに進めば、「独検」3級から2級レベルの受験も視野に入ります。

### 履修系統図



## フランス語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級フランス語 I a	初級フランス語 II a	中級フランス語 I A	中級フランス語 II A	上級フランス語 I	上級フランス語 II
初級フランス語 I b	初級フランス語 II b	中級フランス語 I B	中級フランス語 II B		
		フランス語検定対策 I A	フランス語検定対策 II A		
		フランス語検定対策 I B	フランス語検定対策 II B		

### 初級フランス語 I a・I b 初級フランス語 II a・II b (総合的コミュニケーション)

a 科目と b 科目は、教員 2 人が一冊の教科書を使って、リレー式に授業を進めます。ただし、中間試験・定期試験の際には、a 科目では文法と読解の能力を、b 科目では、「話す・聴く・(読み手を想定して) 書く」能力を測ります。後期の第 2 セメスターになれば、仏検 5 級の合格圏内に入ります。

### 中級フランス語 I A・II A (総合的コミュニケーション)

A 科目、B 科目とも、教科書は同じで、1 年次に使った教科書の続編 (前半部分) を使用します。A 科目は 1 年次と同じ「話す、聴く、(読み手を想定して) 書く、読む」という総合的なコミュニケーションを図ります。一方、B 科目では、それらの能力を獲得するために、コンピューターやスマートフォンを使った学習が加わります。前期の第 3 セメスターでは、「仏検」4 級、後期の第 4 セメスターになれば、「仏検」3 級の合格圏内に入ります。

### 中級フランス語 I B・II B (ICT による学習)

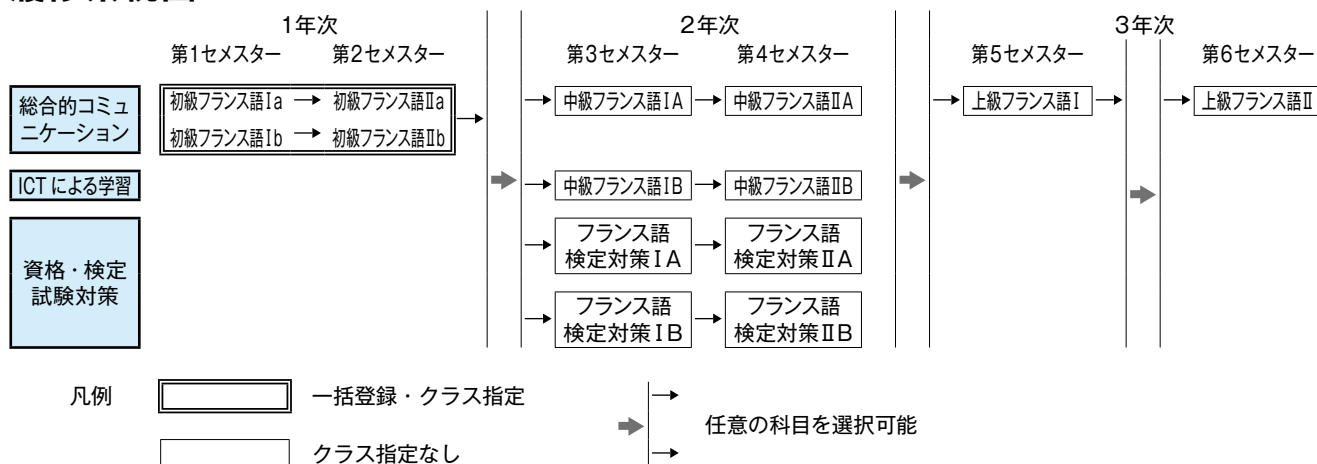
### フランス語検定対策 I A・II A フランス語検定対策 I B・II B

A 科目、B 科目とも、検定試験受験を想定した対策コースです。前期では「仏検」の 4 級を、後期では「仏検」3 級に合わせた授業内容・授業方法となります。ただし、A 科目では、基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行います。一方、B 科目では基本的にテキストの語彙と聴き取り問題についての説明と練習問題を行います。なお、教科書は A・B 科目とも「仏検」4 級・3 級のレベルに対応したものを使います。

### 上級フランス語 I・II (総合的コミュニケーション・時事)

教科書は、1 年次に使った教科書の続編 (後半部分) を使用します。「話す、聴く、(読み手を想定して) 書く、読む」という総合的なコミュニケーションを図るのに加えて、時事問題にも目を向けましょう。前期の第 5 セメスターから、後期の第 6 セメスターに進めば、「仏検」3 級から準 2 級の受験も視野に入ります。

## 履修系統図



## 言語分野

## 中国語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級中国語 I a (読解)	初級中国語 II a (読解)	中級中国語 I A (読解)	中級中国語 II A (読解)	上級中国語 I A (読解)	上級中国語 II A (読解)
初級中国語 I b (会話)	初級中国語 II b (会話)	中級中国語 I B (会話)	中級中国語 II B (会話)	上級中国語 I B (会話)	上級中国語 II B (会話)
				上級中国語 I C (時事・総合)	上級中国語 II C (時事・総合)
中国語入門会話 I	中国語入門会話 II	中国語基礎会話 I	中国語基礎会話 II		
		中国語検定対策 I a	中国語検定対策 II a		
		中国語検定対策 I b	中国語検定対策 II b		

## 初級中国語 I a・II a (読解)

## 初級中国語 I b・II b (会話)

中国語の基礎を学びます。発音を身に付け、漢字を覚え、基本的な文法を習得することが主な学修内容です。I a・II a では読解を通して、I b・II b では会話を通してこれらを学びます。I a・II a と I b・II b とでは教科書も異なります。偏りなく基礎を身に付けるため、一部の学部を除き I a・I b・II a・II b は全て一括して履修しなければなりません。ただし、再履修クラスはそれぞれを個別に履修することが可能です。

## 中級中国語 I A・II A (読解)

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。識字能力を高めながら読解力を鍛えます。I と II は連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

## 中級中国語 I B・II B (会話)

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。聴き・話す訓練を通して会話力を向上させます。I と II は連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

## 上級中国語 I A・II A (読解)

中級中国語や中級検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力を持つ人を対象とした科目です。中国語を母語とする一般の人々が読む平易な文章を辞書を頼りに読むことができるようになることを学修の目標とします。I と II は連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、I と II をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

## 上級中国語 I B・II B (会話)

中級中国語や中級検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力を持つ人を対象とした科目です。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。一定の話題をめぐって中国語で簡単な会話ができるようになることを学修の目標とします。I と II は連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、I と II をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

## 上級中国語 I C・II C (時事・総合)

中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力を持つ人を対象とした科目です。ナマの中国語ラジオニュースを材料に中国のイマを知ることを学修の目標とします。毎回最新のニュースを扱うため I と II の間に難易度の差はありません。I と II はそれぞれ個別に履修することができます。

## 中国語入門会話 I・II

初級中国語 I b・II b の内容を補完しながら基礎的会話力を身に付けることに特化した科目です。初級中国語を履修しながら会話力をさらに鍛えたい人はもちろん、初級中国語を履修せず他の言語の初級科目を履修している人もこの科目を履修することができます。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。I と II は継続して履修しなければなりません。

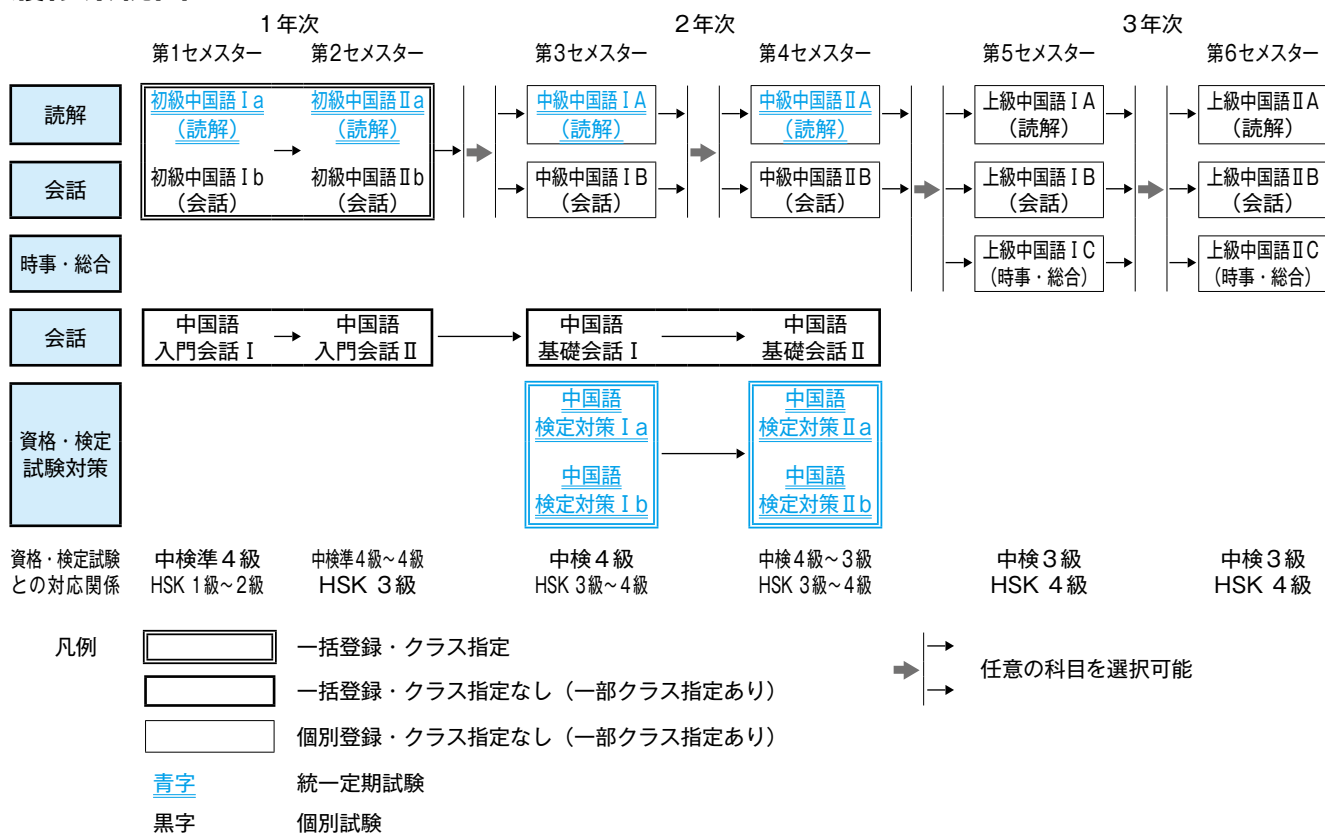
## 中国語基礎会話 I・II

初級中国語や中国語入門会話をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。授業は中国語を母語とする先生により、可能な限り日本語を介さずに行なわれます。I と II は継続して履修しなければなりません。

## 中国語検定対策 I a・I b・II a・II b

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。検定試験に合格することのできる学力を偏りなく十分に身に付けるため a と b はペアで履修しなければなりません。I と II はそれぞれを個別に履修してもかまいません。I は 6 月に行なわれる中国語検定試験で 4 級に合格することが、II は 11 月の中国語検定試験で 3 級に合格することが目標です。II では、11 月の中国語検定試験が終了したあとは HSK4 級の合格に向けた学習へと内容が切り替わります。この科目の履修者は、中国語検定試験で合格した級により成績評価において一定の評点が与えられます。

## 履修系統図



注 1: 同じ列にある科目は全て同時に履修することが可能。  
 注 2: 中国語検定対策は a・b を同時に履修することが必須; 中国語検定試験 (中検) の合格級を成績に反映させる; 定期試験は a・b 統一で一回のみ。  
 注 3: 第3セメスター以降の科目を履修するにはそれ以前の科目を学修したと同等の学力が必要; 初心者に対する配慮はしない。  
 注 4: 中国語入門会話・基礎会話は中国語で初歩的な会話ができるようになることに特化した科目; 初級・中級・上級中国語および中国語検定対策とは別系統。

# 言語分野

## 韓国語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級韓国語 I a (読解)	初級韓国語 II a (読解)	中級韓国語 I A (読解)	中級韓国語 II A (読解)		
初級韓国語 I b (会話)	初級韓国語 II b (会話)	中級韓国語 I B (会話)	中級韓国語 II B (会話)		
				上級韓国語 I (時事・総合)	上級韓国語 II (時事・総合)
		韓国語検定対策 I a	韓国語検定対策 II a		
		韓国語検定対策 I b	韓国語検定対策 II b		

### 初級韓国語 I a・II a (読解) 初級韓国語 I b・II b (会話)

韓国語の基礎を学びます。発音を身に付け、ハングルを覚え、基本的な文法を習得することが主な学修内容です。I a・II aでは読解を通して、I b・II bでは会話を通してこれらを学びます。偏りなく基礎を身に付けるため、I a・I b・II a・II bは全て一括して履修しなければなりません。ただし、再履修クラスはそれぞれを個別に履修することが可能です。

### 中級韓国語 I A・II A (読解)

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。基本的な文法を仕上げると共に読解力を鍛えます。IとIIは連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

### 中級韓国語 I B・II B (会話)

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。聴き・話す訓練を通して日常会話に必要な基本表現を身に付けます。IとIIは連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

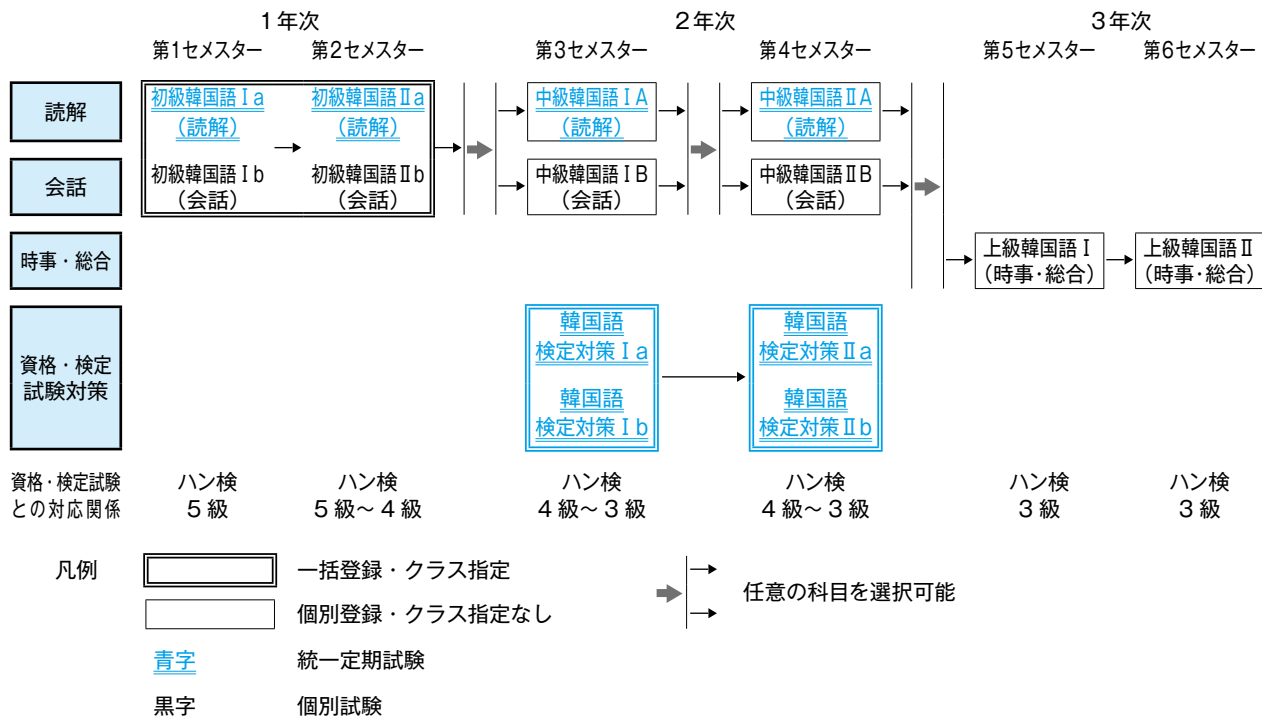
### 上級韓国語 I・II (時事・総合)

中級韓国語や韓国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力を持つ人を対象とした科目です。韓国や朝鮮のイマを知ることを学修の目標とします。IとIIはそれぞれ個別に履修することができます。

### 韓国語検定対策 I a・I b・II a・II b

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力を持つ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。検定試験に合格することのできる学力を偏りなく十分に身に付けるためaとbはペアで履修しなければなりません。IとIIはそれぞれを個別に履修してもかまいません。Iは6月に行なわれる「ハングル」能力検定試験で4級に合格することが、IIは11月の「ハングル」能力検定試験で3級に合格することが目標です。この科目の履修者は、「ハングル」能力検定試験で合格した級により成績評価において一定の評点が与えられます。

## 履修系統図



注1：同じ列にある科目は全て同時に履修することが可能。

注2：韓国語検定対策は a・b を同時に履修することが必須；「ハングル」能力検定試験（ハン検）の合格級を成績に反映させる；定期試験は a・b 統一で一回のみ。

注3：第3 Semester 以降の科目を履修するにはそれ以前の科目を学修したと同等の学力が必要；初心者に対する配慮はしない。

## ロシア語

1年次	
前期	後期
ロシア語入門	ロシア語基礎

### ロシア語入門

ロシアとのコミュニケーションの基本となる言語コミュニケーションの基礎を固めるため、初歩的なコミュニケーション技術の習得及びロシア文化事情についての理解を深めます。

### ロシア語基礎

ロシアとのコミュニケーションの基本となる言語コミュニケーションの基礎を固めるため、ロシア語入門の学修内容の理解を前提に、初歩的なコミュニケーション技術の習得及びロシア文化事情についての理解を一層深めます。

## 履修系統図





## 情報分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
ICT実習Ⅰ	ICT実習Ⅱ		
情報処理実習A※ (文書作成)			
	情報処理実習B※ (表計算)		
情報処理実習C (プレゼンテーション)	情報処理実習D (データベース)		
データ分析実習Ⅰ	データ分析実習Ⅱ	総合情報スキル実習Ⅰ	総合情報スキル実習Ⅱ
プログラミング実習Ⅰ	プログラミング実習Ⅱ		

※情報処理実習A、情報処理実習Bはそれぞれ第1 Semesterと第2 Semesterで同じ内容の実習を開講。

情報分野では、ワードプロセッシング、表計算など現代社会が要求するコンピュタリテラシーとともに、情報倫理、データ分析やプログラミングについても学び、情報リテラシーの育成を目的とした教育プログラムを提供します。

情報分野は大きく分けて、3つの領域から構成され、それらの領域は、(1)学部向け開講科目領域、(2)ソフトウェア習熟科目領域、(3)論理的思考科目領域、となっています。それぞれの領域について簡単に説明します。

### (1) 学部向け開講科目領域

充実した大学生活をおくることができるよう、また、社会人として要求されるコンピュタリテラシーの基礎スキルを育成します。

### (2) ソフトウェア習熟科目領域

ICT実習Ⅰ・Ⅱを履修済み、もしくは、基本的なソフトウェアの利用方法を身につけた者が、さらに実践的、かつ高度なスキルを身に付ける科目領域です。

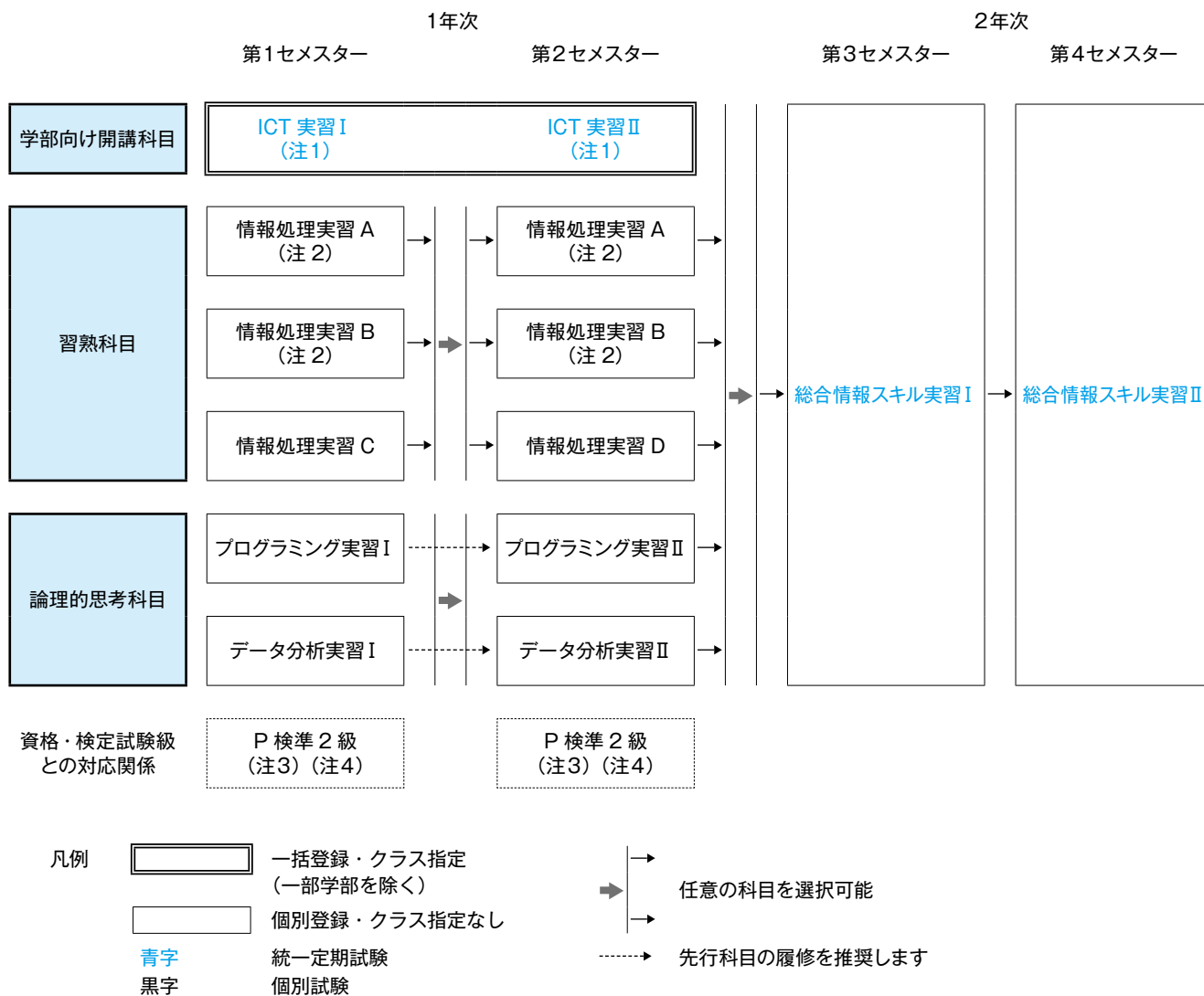
### (3) 論理的思考科目領域

ソフトウェア使用方法の習熟が目的ではなく、論理的思考の鍛錬、およびソフトウェアの活用方法について学ぶことを目的とします。

以下に、各領域科目担当者からのメッセージを伝えます。

学部向け開講科目担当者	ソフトウェア習熟科目担当者	論理的思考科目担当者
実際に社会に出て求められるのは、スマートフォンの操作よりもPCでの操作、情報に関する幅広い知識とタイピング能力です。スマホとPCの操作の間には大きな差があることを念頭におき、卒業後のことも見据えて、仕事でも活かせる実践的なスキルの習得を目指してください。まずはタッチタイピングの習得からスタートです！	情報科目担当者として毎年フレッシュな皆さんとお会いできることを大変うれしく思います。履修学生はパソコンの習熟度、使用頻度は様々ですが、全員が授業目標に向かって頑張っています。Word、Excel等のアプリケーションソフトは今や大学生活、社会人生活では必須といわれるツールです。楽しみながら、積極的に学びましょう！	高校までは、知識を習得するインプット型の学びに重きがおかれていました。大学では、知識の習得はもとより、論理的な思考に基づき、自らの意見を発信するアウトプット型の学びが要求されます。コンピュータ上のアプリケーションソフトを活用しながら、論理的な思考力の礎を築いてみませんか。皆さんの履修を待っています。

## 履修系統図



注1：所属学部により、学習内容が異なります。

注2：連続する Semester で、同内容の実習が実施されます。ただし、同科目の単位修得後別 Semester で履修はできません。

注3：資格試験受験時には、検定料が必要となります。

注4：ICT 実習 I・II を受講する学部の一部が対象となります。

## 基礎思考分野

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
文章表現Ⅰ	文章表現Ⅱ				
文章読解Ⅰ※		文章読解Ⅱ	文章読解Ⅲ	文章読解Ⅳ	文章読解Ⅴ
数的思考Ⅰ	数的思考ⅡA		数的思考ⅢA		数的思考Ⅳ
		数的思考ⅡB		数的思考ⅢB	
時事・現代用語Ⅰ	時事・現代用語Ⅱ			時事・現代用語Ⅲ	

※「文章読解Ⅰ」は前後期とも同じ科目が開講されます。

## 文章表現Ⅰ・Ⅱ

コミュニケーションのための文章表現を学ぶとともに、大学でのレポートを始め、自分が学んだこと、考えたことをわかりやすく読み手に伝えるための、書き手としての姿勢と基本的な書き方を学びます。

## 文章読解Ⅰ～Ⅴ

Ⅰ～Ⅲでは文章から正確に情報を読み取り、自分の学びにつなげていくための練習をし、Ⅳ・Ⅴでは、就職試験で問われる文章問題の対策も行います。

## 数的思考Ⅰ

数を使用して考えることの基礎を学びます。パズル問題や図形の中に使われている数を認識して考えることにより、思考力を養っていきます。

## 数的思考Ⅱ・Ⅲ

Aでは数的推理分野、Bでは判断推理分野や資料解釈を学びます。各分野の基礎から応用まで深く学ぶことにより思考力を付けると共に、公務員試験等の就職試験の対策も行います。

## 数的思考Ⅳ

数的思考Ⅰ～Ⅲで学んだことを総合的に使用します。新作の問題でどのようにⅠ～Ⅲで学んだ思考力を使用できるかを考えていきます。

## 時事・現代用語Ⅰ

現代の世界と日本の状況とその課題を理解するために、新聞やテレビ、インターネットで報道されるニュースに関心を持ち、社会の現状についての基礎知識を修得し、「なぜこうなるの？」と現状を分析する視座を確立し、社会に対する理解力を高めていきます。

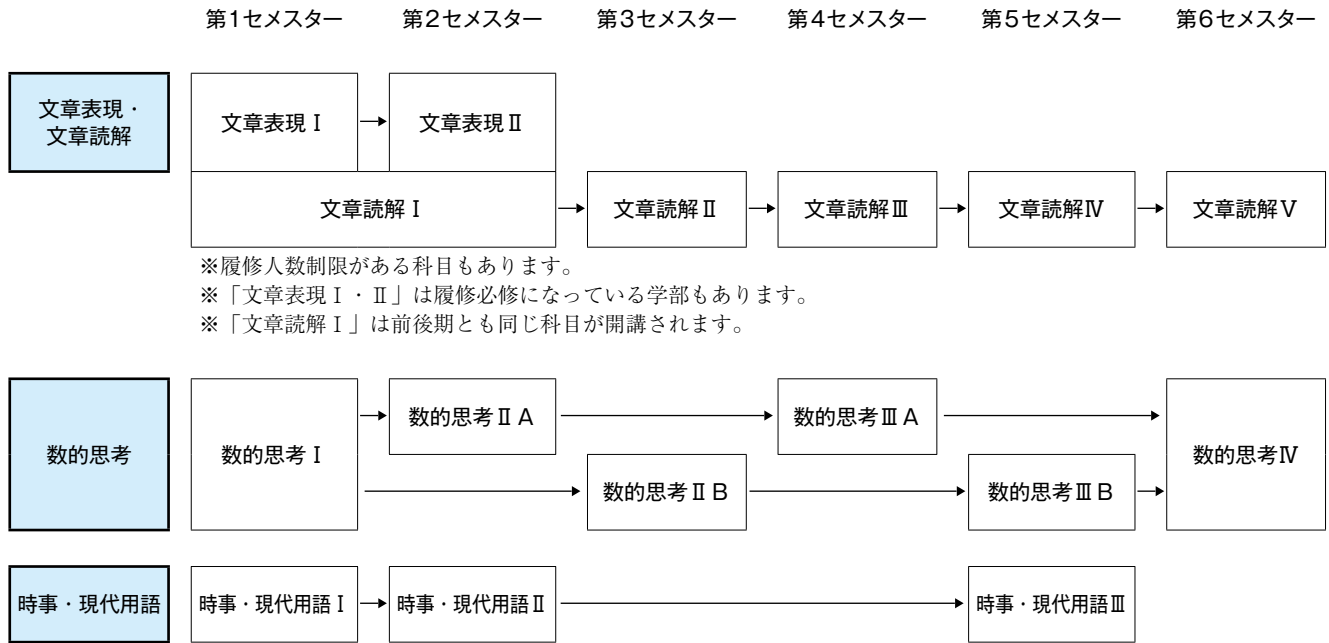
## 時事・現代用語Ⅱ

現代の世界と日本の状況と課題について考えるため、ニュースを基に現状についての基礎知識を修得し、現状について考える中で、自分の視点を構築し、現代の世界と日本と自分を関連づけて考える力を培っていきます。

## 時事・現代用語Ⅲ

地球市民の一員として、現代の世界と日本の状況と課題について自分の視座を確立し、他人の意見を受容しながら、現代の課題について考え抜き、自らの主張を確立し、行動につなげることのできる力を養成します。

## 履修系統図



## 高大接続分野

1年次	
前期	後期
近現代史概論Ⅰ	近現代史概論Ⅱ
生物学概論Ⅰ	生物学概論Ⅱ
化学概論Ⅰ	化学概論Ⅱ
数理科学基礎Ⅰ	数理科学基礎Ⅱ

高校で日本史しか学んでいないから世界史に関する基礎知識を得たい、薬剤師や臨床検査技師の試験を目指して化学・生物の基礎力をつけたい、経済学や心理学でデータ分析の基礎力をつけたいなど、目的を持って履修することを勧めます。

### 近現代史概論Ⅰ

地歴科目の学修が充分ではない学生を対象とし、各学部の重視する領域や分野について、近現代を中心に欧米史からテーマを選定して講義形式で授業を行います。学部の専門的な学習に備えた知識基盤を構築し、学部の専門分野に対するモチベーションのアップを図ります。

### 近現代史概論Ⅱ

地歴科目の学修が充分ではない学生を対象とし、各学部の重視する領域や分野について、近現代を中心に日本とアジア史からテーマを選定して講義形式で授業を行います。学部の専門的な学習に備えた知識基盤を構築し、学部の専門分野に対するモチベーションのアップを図ります。

### 生物学概論Ⅰ

リメディアル教育の観点から、理系学部で学習する専門科目の基礎を築くと共に、専門科目に直接繋がる事項については応用的な内容をも取り入れ、専門科目の学習に留まらず研究への橋渡しをすることを目的に開講します。生物学概論Ⅰでは、高校で生物を得意としてこなかった学生向けに、物理・化学・地学と関連付けて生物学全般を演習を含めて基礎から系統的に学習・習得することを目標とします。

### 生物学概論Ⅱ

リメディアル教育の観点から、理系学部で学習する専門科目に繋がる分野や事項について、生物学の基礎的知識を整理し、生化学、微生物学などを中心に、専門科目の学習や研究への橋渡しをすることを目的に開講します。生物学概論Ⅱでは、生物学の基礎を踏まえて、高校で学習してきた物理・化学・地学と関連付けて、応用に繋がる生物学を演習を含めて学習・習得すると共に、ディスカッションとレポートを取り入れ、プレゼンテーションを通して自身の生物学に関する考えを発表できることを目標とします。

### 化学概論Ⅰ

それぞれの学部での専門的な知識を深めていく上で必要な化学的な基礎知識の習得を目的とします。高校において化学を学んで来なかったもの、「化学基礎」を学んだもの、「化学」を学んだものと多様であるが、化学を理解する上で必要となる基礎的で幅広い化学の知識を習得させます。

動画や実験教材を活用し、知識の習得だけでなく、「なぜ」「どうして」という化学の本質について、主体的に学べるように工夫します。また、演習の時間を設け、知識や考え方の定着を図ります。

## 化学概論Ⅱ

それぞれの学部での専門的な知識を深めていく上で必要な化学的な応用力の習得を目的とします。高校で学んだ化学の基礎的な内容を前提とし、化学平衡や反応速度、食品などの日常生活に利用されている有機化合物のしくみなど、化学的知識を活用して主体的に学び、考察し、判断し、発信できる力の習得を図ります。演習の時間を設け、分析・考察する力の定着を図るだけでなく、考察をまとめ、発表・評価させる機会を設けます。

## 数理科学基礎Ⅰ

学士教育では、数学Ⅰや数学Ⅱなど高等学校で習得した数学の基礎知識を前提とした少くない専門科目が開講されています。各分野の専門家として求められる数学知識の習得を目的とし、次の方法により専門科目、および各分野の研究へとつなげていきます。高等学校で習得すべき数学知識の体系を理解し、専門教育上必要とされる知識との関係性について理解します。また、基礎的な演習問題をとおり、論理的思考力をはぐくみながら、数学に対する興味を育成します。

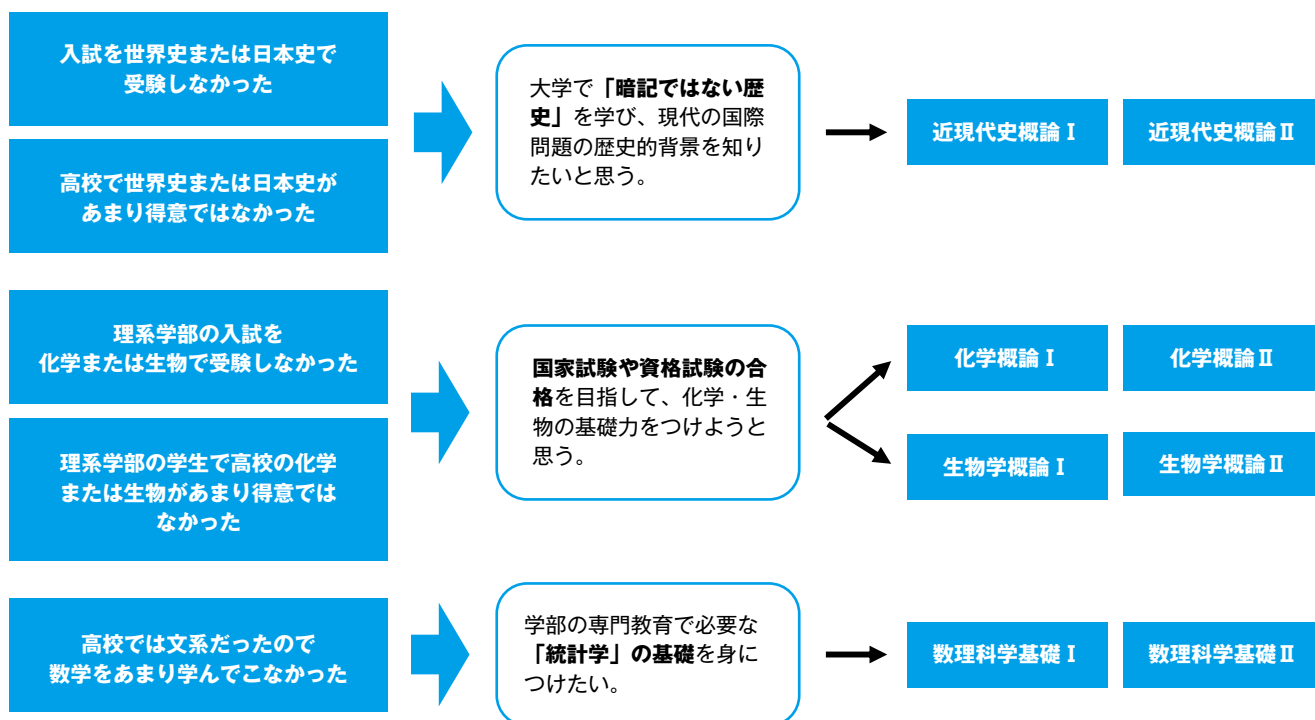
## 数理科学基礎Ⅱ

事象を数学的に考察し表現する能力や、数学を積極的に活用する態度は、数学を基礎とした専門科目を理解するうえで、重要な基盤となります。また、単に数学問題を解く技術的な知識の習得に固執することなく、数学を学習する必要性について考えます。また、数値データが容易に手に入る時代となり、大量のデータから意味のある情報を引き出し、意思決定へとつなげるデータ活用力が求められています。このことから、データ分析を含む基礎統計とともに、きたる知識基盤社会における必要不可欠な数学素養をはぐくむものとしします。

## 履修系統図

高大接続分野の科目は、Ⅰ・Ⅱで講義内容は単元分野が異なりますので、第1 Semester・第2 Semesterと継続履修することを勧めます（シラバスを読んで、どちらか一つを選択履修することも構いません）。

### 履修を勧める学生の例



## キャリア教育分野

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
自己発見・大学生活	プロジェクト学習基礎	自己理解・将来展望			
		トップランナー特別講義		産業界等連携講義	

初年次より社会との接点を持ち、課題解決型学習（PBL）やアクティブラーニングの教育手法を多用し、主体的に学習する力を身につけます。

### 自己発見・大学生活

これからの大学生活に向けてマインドセットを行い、大学生活をグループでデザインをしていきます。

### プロジェクト学習基礎

神戸市の優良企業の担当者に、現在企業が抱える課題を提示してもらい、チームでプロジェクトを組み、解決を目指します。

### 自己理解・将来展望

グループワークを通して自分の将来について考えます。

2年次より、実際に社会で活躍している人の話を連続講義の形式で聞くことにより、将来について考えます。

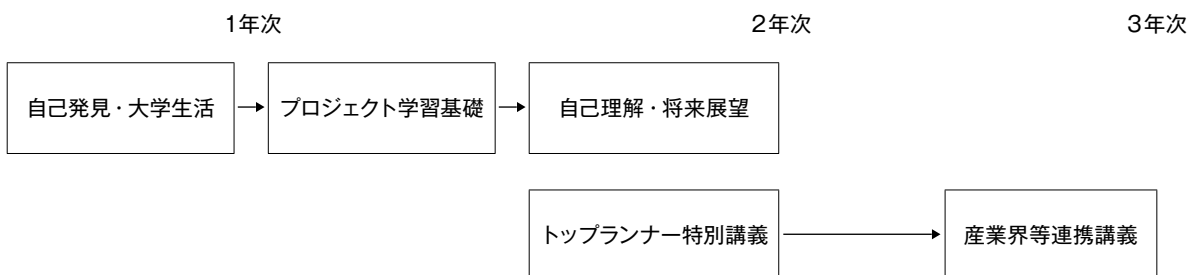
### トップランナー特別講義

神戸市の企業の社長に登壇していただき、トップランナーのポリシーや困難の乗り越え方についての話を聞き、今後の生き方について考えます。

### 産業界等連携講義

神戸学院大学のOBや企業人事の話を聞き、職業観や大学生活について考えます。

## 履修系統図



## 国際化推進分野

1年次	
前期	後期
Japanese Politics and Economy ※	Japanese Politics and Economy ※
Japanese Culture in Historical Perspective	Issues in Japanese Society

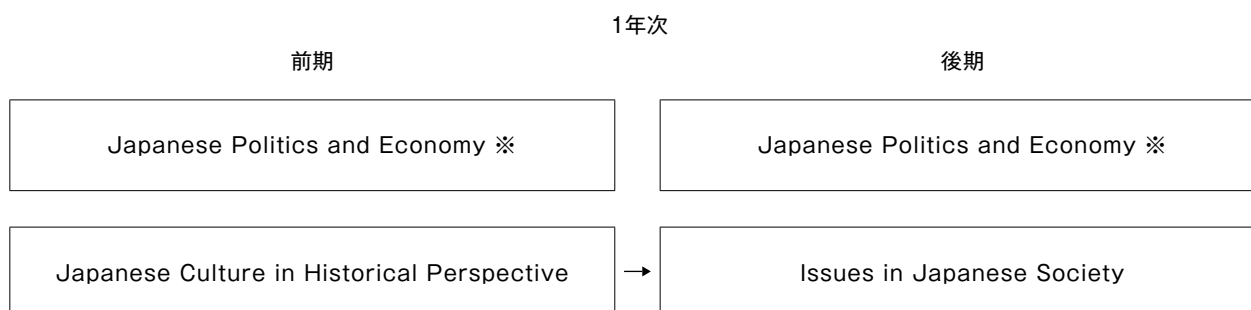
※「Japanese Politics and Economy」は前後期とも同じ科目が開講されます。

**Japanese Politics and Economy** : グローバル社会における日本の政治と経済について、英語でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、21世紀の世界と日本について考えます。

**Japanese Culture in Historical Perspective** : 現代日本の文化を、歴史的な流れと共に学び、日本の文化について、自分の経験や意見を述べながら、考えられるようになることを目指します。

**Issues in Japanese Society** : 現代日本の多様かつ動的な社会・文化の状況を理解し、自分の経験やバックグラウンドを基に、グローバルな視点から日本の今について考え、発言できるようになることを目指します。

## 履修系統図



※「Japanese Politics and Economy」は前後期とも同じ科目が開講されます。



# リベラルアーツ領域

## 神戸学院教養分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
人文科学入門A	欧米の社会と文化Ⅰ	欧米の社会と文化Ⅱ	
人文科学入門B	アジア・アフリカの社会と文化Ⅰ	アジア・アフリカの社会と文化Ⅱ	
	日本の歴史と文化Ⅰ	日本の歴史と文化Ⅱ	
	こころの科学	現代社会と心理学	
ジェンダー論			
社会科学入門A	法と社会Ⅰ	法と社会Ⅱ	
社会科学入門B	現代の政治	現代の国際関係	
	現代の経済Ⅰ	現代の経済Ⅱ	
	現代の経営Ⅰ	現代の経営Ⅱ	
	現代の社会（消費者教育）	情報と社会	
	男女共同参画推進論		
	現代社会と人権		
健康科学入門	食の科学Ⅰ	食の科学Ⅱ	
	薬の科学Ⅰ	薬の科学Ⅱ	
	環境の科学Ⅰ	環境の科学Ⅱ	
	現代の医療と福祉Ⅰ	現代の医療と福祉Ⅱ	
	現代の障がい者問題		

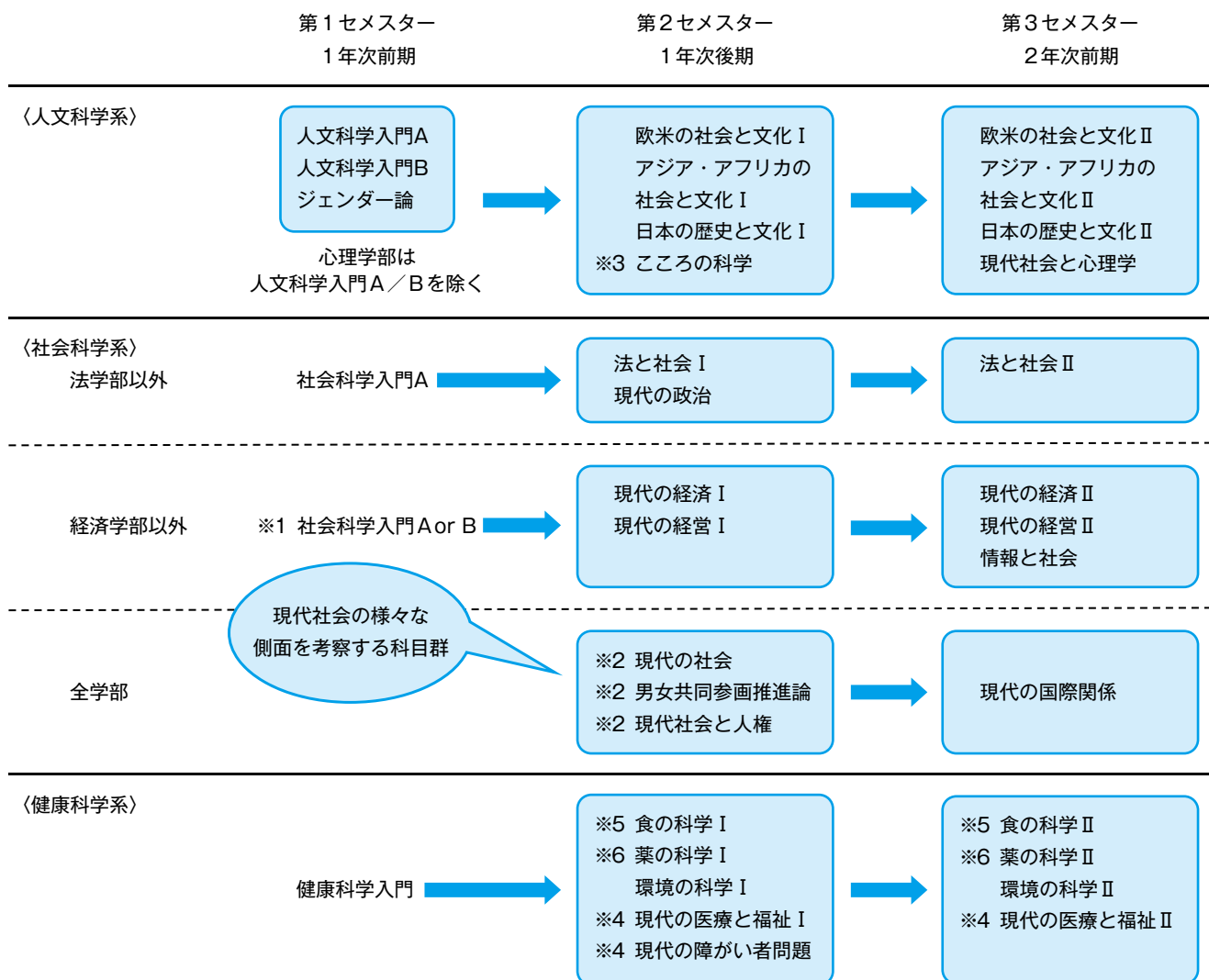
### 「神戸学院教養分野」各科目について

文理10学部の総合大学としての強みを生かした教養（リベラルアーツ）科目を展開し、みなさんが文化・社会・自然に関する広く豊かな知識に触れ、豊かな感受性をもって主体的に考えていく姿勢を育みます。教養教育の在り方が問われているなか、10学部が連携し担当するさまざまな教養科目を通して、生涯学び続けるために必要な自立的学習基盤と社会人として備えるべき倫理観・責任感を醸成し、生産性や効率ばかりを求めるのではなく、将来みなさんが新しい価値を創造し、より良い社会を築いていけるようになることを目的としています。

### 「ジェンダー論」「男女共同参画推進論」（男女共同参画推進室の科目）

多くの学術分野で重要な概念として使用されつつあるジェンダーについて、様々な観点から考察することを通じて、ジェンダーの課題を自分自身の生活と関連付けて考える力を養うことを目的としています。授業を通じ、生物学的性差とジェンダーの視点についての基礎的知識と考え方を修得し、説明できることを目標とします。

## 履修系統図



- ※1 法学部は「社会科学入門A」を除く。経営学部は「社会科学入門B」を除く。
- ※2 現代社会学部は「現代の社会」、「男女共同参画推進論」、「現代社会と人権」を除く。
- ※3 心理学部は「こころの科学」を除く。
- ※4 総合リハビリテーション学部は「現代の医療と福祉 I・II」、「現代の障がい者問題」を除く。
- ※5 栄養学部は「食の科学 I・II」を除く。
- ※6 薬学部は「薬の科学 I・II」を除く。

## 地域学分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
地域学入門A (神戸学入門)	地域学講義 I A (兵庫学)	地域学講義 II A (社会貢献とボランティア)	地域学演習 A (実業界人物伝を読む)
地域学入門B (兵庫の自然地理)	地域学講義 I B (環境学)	地域学講義 II B (都市比較論)	
地域学入門C (現代観光論)	地域学講義 I C (地方創生と観光)	地域学講義 II C (地方自治体の都市政策)	地域学演習 B (データ活用を通じた地域理解)

### 地域学入門A (神戸学入門)

地域学とは歴史、文化、経済といった側面から多面的に地域を分析する学問であり、そこから地域に関する知識を得ること、更に地域の諸問題を理解し、その解決策を考えることに繋がります。本講義では神戸の地を理解するために、神戸の成り立ちとゆかりの人物を取り上げ、彼らの各方面での業績から、多面的に神戸を理解します。神戸に関する歴史、文化、産業など地域の特徴を学び、地域の抱える問題とその対策について、自分なりに意見形成ができるまでの理解に至ります。

### 地域学入門B (兵庫の自然地理)

地域の捉え方はさまざまであるが、本授業では地域を自然環境（地形、気候など）から、多面的・多角的、総合的に捉えます。兵庫県は本州にあって太平洋から日本海にまたがる県です。そして東京都と神奈川県、埼玉県を合わせた広さをもっています。本授業では地理的な見方・考え方を学ぶために地図を用いて、兵庫の概要や特色、空間的ひろがり、他地域とのつながりを考えます。そして地域に関心を持ち、地域の概要や特色を自然地理と環境から説明できるようになることを目標にしています。

### 地域学入門C (現代観光論)

観光立国を掲げる日本の観光業の現状について理解します。観光をめぐる産業は21世紀の日本を担う重要な産業として考えられています。それは政府の成長戦略や2008年に創設された観光庁など国を挙げての取り組みからも窺えます。国内においては都市と地方の格差が叫ばれ、地域活性化の手段として観光が期待されています。本講義では観光に関する基礎知識を身に付け、その知識をもとに現代の観光について考えます。

### 地域学講義 I A (兵庫学)

兵庫県が日本の都道府県では最大の旧5カ国（厳密には7カ国）から成る事実をまず知り、それぞれ気質の異なる旧国がなぜ同じ県に集約されることになったのかを考えます。「兵庫」の語源とは何か、5つの顔をもつといわれる兵庫県がどのように生まれたのか。特異な県内の祭りや産業、風土や文化を歴史的に探り、各地域に根付く独自の文化に思いをはせ、地域の特色と圏域の全体像、将来像も展望します。

### 地域学講義 I B (環境学)

兵庫県は全国的に見ても温暖な地域の一つで、大都市から農山村、離島までさまざまな地域で構成されており県域が広範囲に及ぶため、多様な気候と変化に富んだ風土をもっています。北部は豊かな森林丘陵地や田園地が広がるとともに、標高700～900m級の山並みが連なり、中南部は市街地が広がっており、山並みから切り離された丘陵部が市街地内に点在しています。そして多くの河川が南北に流れ、瀬戸内海には大小40余りの島が点在し、群島を形成しています。授業では県全域のもつ特性を分析しながら地理学（自然地理）の視点で兵庫県を考えます。

### 地域学講義 I C (地方創生と観光)

人口減少社会の到来や経済のグローバル化により衰退した地域をどのように考えていくかという問題が大きくなってきています。地域が抱える問題は現代社会が抱える問題でもあり、そのようななか、まちづくりが注目されています。地域活性化の手段として観光資源を観光まちづくりに活かし、成功している地域も数多くみられます。神戸は近代以降、外国人居留地の設置やポートアイランドの建設などといった、全国でも類をみない“先進的なまちづくり”の歴史を持つ街です。神戸を通して地域の未来、方向性そして地方創生を、学生が主体的に考えることができるようになることを目標とします。

### 地域学講義ⅡA（社会貢献とボランティア）

阪神淡路大震災の経験を主たる参考資料とし、災害ボランティアに対する実践的な視点での理解を目指します。また、地方公務員や消防・警察・自衛隊の災害時における活動と、現行法制度との間の問題点を理解します。災害に対する対応事例研究を通じて、各自の専門分野における社会貢献の在り方に対して意見形成させます。

### 地域学講義ⅡB（都市比較論）

神戸市の立地条件や都市としての魅力を改めて評価・確認するために、主に人口規模と港湾を視点として、国内外の類似点を持つ他都市との比較を行い、神戸の活性化に向けて様々な都市問題の解決に対する案を学生とともに考察します。

### 地域学講義ⅡC（地方自治体の都市政策）

少子高齢社会の中での神戸市の政策を考えるために、地方税などの地方財政制度の基礎を理解し、今後の人口動態や税収の推移などのデータを検討し、将来的な課題を明らかにします。インバウンドの波が神戸にあまり及んでいない現状に対して、外国人観光客を呼び寄せる新たな神戸観光プランを学生とともに提案します。

### 地域学演習A（実業界人物伝を読む）

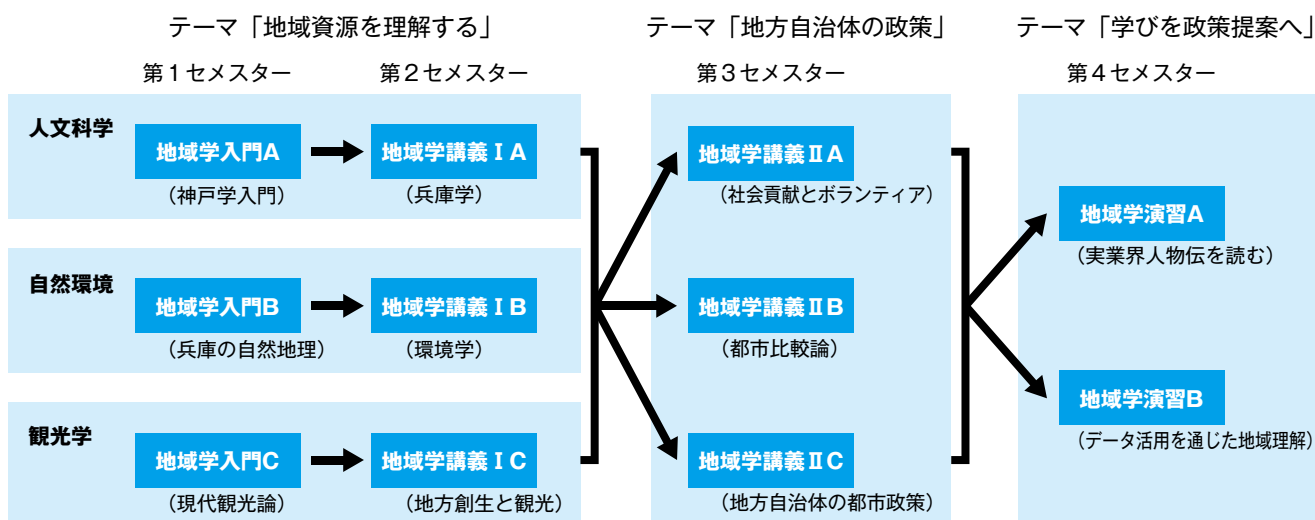
前半は代表的な人物を取り上げ、企業経営の流れからターニングポイントとなった重要な経営判断の事例を解説し、後半での学生発表のモデルを提示します。学生は兵庫・神戸の実業界で活躍した経営者から、各自が一人選びその人物の経営哲学や時々の経営判断に焦点を絞って、パワーポイント発表を行います。

### 地域学演習B（データ活用を通じた地域理解）

活字化された各種データやネット上にアップされている統計データの活用に関するノウハウを講義し、基礎的な統計学と分析法を習得することを目的とします。活用するデータに関しては、神戸・兵庫・関西の理解を主眼とし、観光・地方創生・災害をキーワードとしたものとします。

## 履修系統図

神戸を主たるフィールドにして、3つの入口から一つを選んでください。  
第1 Semester・第2 Semesterは、系統性を持ちます。



## 芸術分野

1年次	
前期	後期
西洋美術	造形論・色彩論
日本と東洋の美術	美術演習
西洋音楽	基本音楽理論
日本と世界の民族音楽	歌唱・合唱演習

美術分野では、知識と教養の教育として講義科目「西洋美術」と「日本と東洋の美術」を開講します。さらに、美術から美学に至る内容の講義「造形論・色彩論」、そして実際に創作を行う「美術演習」を開講します。

音楽分野では、知識と教養の教育として講義科目「西洋音楽」と「日本と世界の民族音楽」を開講します。さらに、音や音楽の基礎的な理論と楽譜や楽器の知識を教授する「基本音楽理論」、そして実際に声を出して音楽を実践する「歌唱・合唱演習」を開講します。

### 西洋美術

本講義は、西洋美術全般について、その歴史と実相を講じるものです。西洋の美術は、古代宗教の時代から、古代ギリシャにて最初の頂点に達します。やがて周囲の異文化の影響を受けながら、キリスト教美術、ルネサンス、ルネサンス音楽を経て、クラシック音楽に至ります。こういった背景と共にクラシック音楽の実相を紹介解説し、今日のその現状をも考察します。

### 日本と東洋の美術

造形や絵画というものは、古くから世界各地に見られるものです。本講義は、日本をはじめ西洋以外の世界の美術について講じるもので、建築物から、絵画、仏像のような造形に至るまで、古今東西の美術を論じます。時代や地域の違いによって、文明の性格が異なるのと同様に芸術表現も様々に異なります。芸術を通じて、人間の想像力とその文化の多様性について論じ考察します。

### 造形論・色彩論

美術作品を造形としての姿や、色彩として捉え、創作者や時代を意識しつつも、それらを超越した見方で観察、観賞、分析し考察します。そこには時空を超えた真理や共通点、共通の課題などが見いだせます。美術に対する新たな見方を知ることによって、芸術に対する新たな知見を獲得します。

### 美術演習

幾つかの美術作品をピックアップして鑑賞し、細部に至る分析を行います。更にそれを踏まえ、自らも美術作品の制作を行い、そのことを通じて創作の現実や創作者の持つ技術を、実体験として学習します。こういった活動を通じて、創作や創作者の実相を知り、美術、そして芸術というものを実感を持って理解します。

### 西洋音楽

本講義は、今日一般の音楽の基礎となっている西洋音楽について、クラシック音楽を中心にその歴史と実態を講じるものです。西洋音楽は、古代文明での発生からギリシャ劇の音楽、キリスト教会音楽、ルネサンス音楽を経て、クラシック音楽に至ります。こういった背景と共にクラシック音楽の実相を紹介解説し、今日のその現状をも考察します。

### 日本と世界の民族音楽

世界各地にはその地域と人々の営む多種多様な文化があり、そこに多種多様な音楽が存在しています。本講義ではそれら様々な音楽文化を講じ、ときに体験しながら、音楽と文化の多様性を探究し、それらを通じて深く柔軟な思考力や洞察力を養います。特に、雅楽や声明、能楽、義太夫、歌舞伎といった我が国の伝統芸能に焦点を当て、その特性を論じます。

### 基本音楽理論

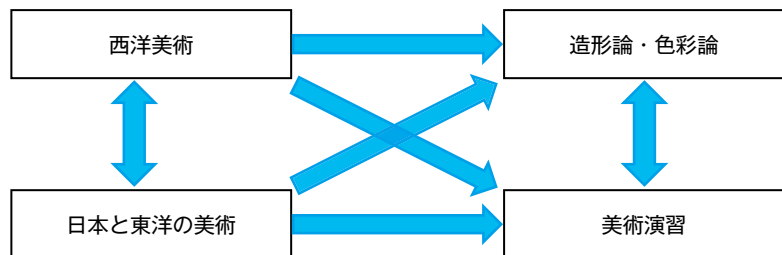
音楽は、感情の表現であると共に、理論的な仕組みに寄って成り立っています。一方西洋音楽では、楽譜という形で音楽を記号として記述しており、この楽譜は、今日ではポピュラー音楽も含めて、多くの音楽に於いて世界的に使用されています。この授業では、楽譜というものを改めて知り、音楽を或る程度理論的に捉える方法を学習します。

### 歌唱・合唱演習

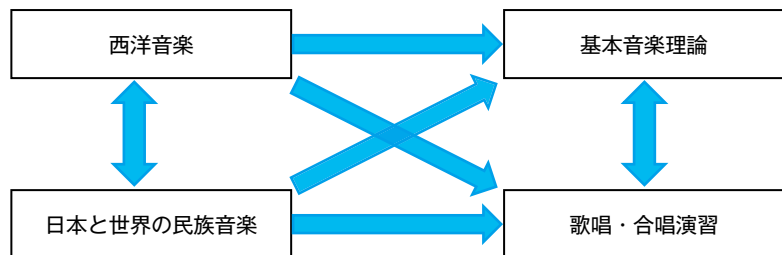
本演習では、音楽の基本である歌唱を実践を伴って理解し、合唱の形に昇華していきます。楽譜を読み解き、音に変換し、さらにその音を他者が表現した音と融合させるというものです。こういった協働作業は、自らの表現を確立した上で他者との関係を築く、という社会活動の基盤を身に付ける足掛かりとなるでしょう。

## 履修系統図

#### 美術



#### 音楽



# スポーツ科学分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
スポーツ科学入門	スポーツと健康 A	スポーツと健康 B	
健康・体力づくり演習	スポーツ科学演習 A	スポーツ科学演習 B	

## 健康・体力づくり演習

ウォーキングやレクリエーションなどのライトスポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感するとともに、生涯スポーツおよび健康づくりの方法を講義で学び、運動習慣を身につけることを目的とします。

## スポーツ科学入門、スポーツ科学演習 A・B

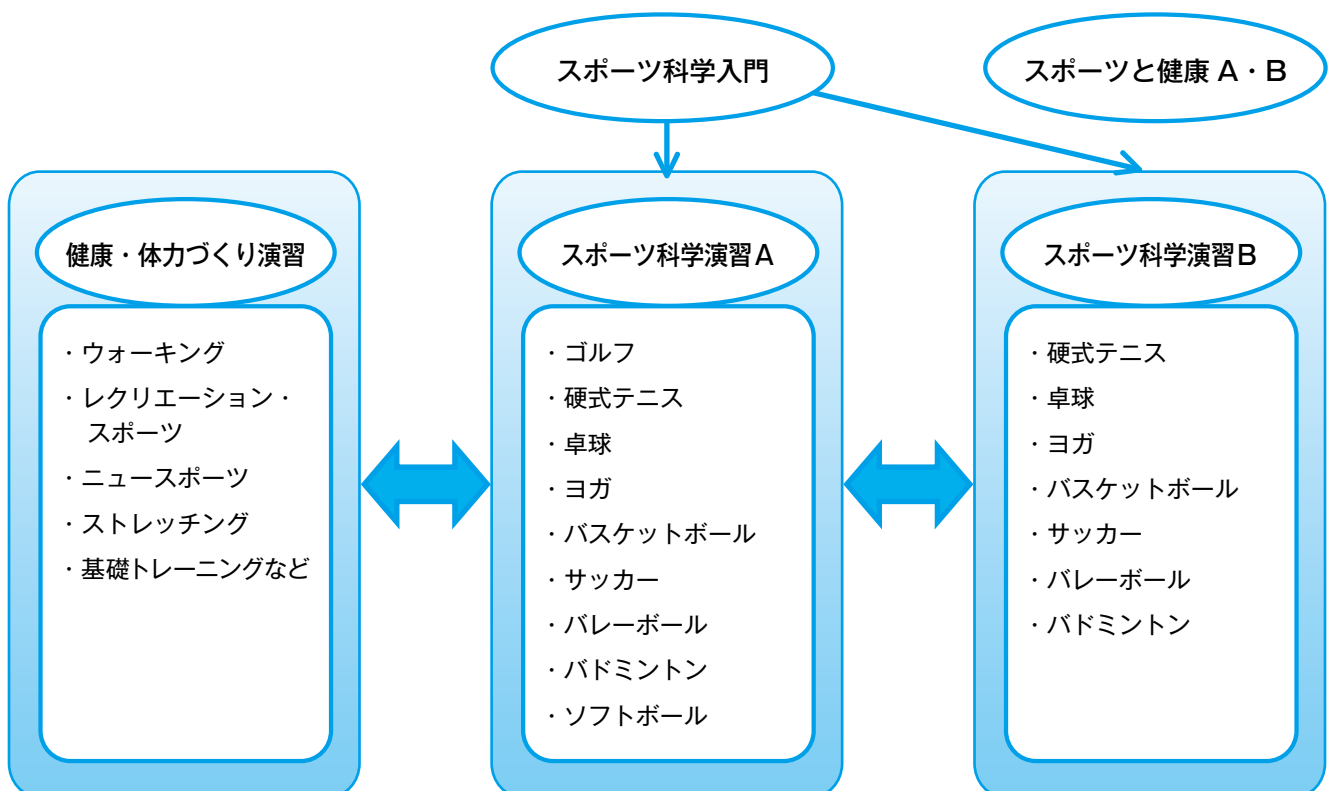
スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習 A・B の入門講義です。スポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技規則などについても説明を行います。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、素晴らしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際の魅力を学びます。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっています。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となります。身体運動の実戦による個人に応じた技能の向上と競技規則・戦術などを理解します（キャンパスにより種目は異なります）。

## スポーツと健康 A・B

近年わが国では、少子高齢社会を迎え「健康」や「体力」に対する関心が高まっています。生涯にわたってスポーツとかわかり、「健康で豊かな日々を過ごす」ために必要なスポーツの文化的特質、身体運動の仕組みなどを学びます。

## 履修系統図



## ポアイ4大学・TKK共通教養分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
地域コミュニティ入門	防災・防犯ワークショップ	地域連携インターンシップⅠ	地域連携インターンシップⅡ
防災・防犯入門	健康づくり・生活支援ワークショップ		
健康づくり・生活支援入門	防災・防犯指導論実習		
	健康・生活支援指導論実習		
	人間関係づくりワークショップ		
社会貢献学入門(TKK科目)			

### ポアイ4大学共通教養科目

ポर्टアイランドにキャンパスを置く、神戸学院大学・神戸女子大学・兵庫医療大学・神戸女子短期大学の4大学は、隣接しているという利点と各大学の特色を活かしつつ高度な研究・教育活動で連携、また、地域・企業・自治体などとも交流・連携しています。この分野では、文部科学省から「戦略的大学連携支援事業」として採択された教育活動の取組みとして、2009年度より、各大学の特色を活かした健康、生活、防災、地域等をテーマとする授業を展開しています。神戸学院大学に在籍しながら、他大学の授業を受講することで、より幅広い学びを身につけることができます。

安全・安心・健康をテーマとした科目群で、リスクマネジメントやコミュニケーションについて多く学べるのが特徴で、地域活動への参加そのものを単位として設定するインターンシップも充実しており、地域性や生涯教育に配慮した内容となっています。

他大学の学生と共に同じ教室で学び、互いの専門性を刺激しながら教養を深め、コミュニケーション能力を伸ばします。

### TKK科目

東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学の連携プロジェクト「防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献活動の展開」の一環として、遠隔システムを利用した「社会貢献学入門」を開講しています。3大学がそれぞれの特色や強みを活かしつつ、文系と理系の融合により高度な社会貢献に関する研究・教育を行い、社会に貢献できる人材を目指す本課程において、社会貢献を学問として学ぶうえでの導入的な役割を担い、基礎的な知識を広く身につけます。

### 履修系統図

